

## 1. 略歴

1979年 9月	国際基督教大学 教養学部 人文科学科 入学
1984年 3月	国際基督教大学 教養学部 人文科学科 卒業
1984年 4月	東京大学大学院 総合文化研究科 比較文学比較文化専攻 修士課程入学
1987年 3月	東京大学大学院 総合文化研究科 比較文学比較文化専攻 修士課程修了
1987年 4月	東京大学大学院 総合文化研究科 比較文学比較文化専攻 博士課程入学
1990年 3月	東京大学大学院 総合文化研究科 比較文学比較文化専攻 博士課程単位 取得満期退学
1990年 4月	東邦大学薬学部 専任講師
1992年 4月	中央大学法学部 専任講師
1993年 4月	中央大学法学部 助教授
1998年 4月	中央大学法学部 教授
2014年 4月	上智大学文学部英文学科 教授
2016年 3月	東京大学大学院 総合文化研究科 比較文学比較文化専攻博士号（学術）取得
2017年 4月	日本学術振興会学術システム研究センター専門研究員（～現在）
2019年 4月	東京大学大学院人文社会系研究科 教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

イギリス文学、比較文学

### b 研究課題

イギリス文学、文化における「階級」の表象が研究の中心である。小説や演劇、詩、そして音楽や視覚芸術、映像作品、そしてアダプテーションも含む幅広いテキストにおける「階級」の概念とイメージ、ステレオタイプの考察と分析を行っている。

### c 概要と自己評価

2020年度から2021年度にかけては英国における「アッパー・クラス」の表象を、主に18世紀から21世紀までの文学テキスト、そして映画、ドラマといったポピュラーカルチャーの媒体をとりあげ、分析を行なった。さらに、英国における「階級」の概念の研究においてきわめて重要な「言葉」と「階級意識」をとりあげ、小説、演劇、映画等のテキストの考察をとおして、それらのテキストに書かれている「言葉」がいかにつねに「階級」を意識したものであるかを考察した。2021年度にはさらに、イギリス文学、文化における「ミドル・クラス」の表象を、「郊外」、そして「観光」をキーワードとして進めていった。

### d 主要業績

#### (1) 著書

共著、『文学とアダプテーションII——ヨーロッパの古典を読む』、小川公代、吉村和明、新井潤美ほか、春風社、2021.11  
単著、新井潤美、『ノブレス・オブリージェ イギリスの上流階級』、白水社、2021.12

#### (2) 論文

坂下史、新井潤美、顛原澄子、「大石和欣著『家のイングランド——変貌する社会と建築物の詩学——』をめぐって」、  
『都市史研究』、8、107-08 頁、2021.11

#### (3) 書評

Haru Takiuchi、*British Working-Class Writing for Children: Scholarship Boys in the Mid-Twentieth Century*、Palgrave、『英文学研究』、Vol. XC VII、24-30 頁、2020.12

#### (4) 解説

新井潤美、チャールズ・ディケンズ（原作）、アーマンド・イアヌッチ（監督）、映画『どん底作家の人生に幸あれ！』、  
『ディケンズ・フェロウシップ日本支部年報』、第44号、3-7 頁、2022.1

#### (5) 学会発表

国内、新井潤美、「‘The Young Gentleman’ —チャールズ・ディケンズと「階級」」、19世紀イギリス文学合同研究会準備大会シンポジウム「現代を生きる19世紀イギリスの作家たち」、19世紀イギリス文学合同研究会準備大会、オンライン、2021.9.18

(6) マスコミ

「メイドの謎を解明せよ!」、『超人女子戦士ガリベンガーV』、テレビ朝日、2021.1.7

(7) 翻訳

共訳、Jane Austen、*Mansfield Park*、新井潤美・宮丸裕二、『マンスフィールド・パーク（上）』、岩波書店、2021.11

共訳、Jane Austen、*Mansfield Park*、新井潤美、宮丸裕二、『マンスフィールド・パーク（下）』、岩波書店、2021.12

### 3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

セミナー、「イギリス文化に親しむ会 イザベラ・バードの見た「日本」——ヴィクトリア朝の牧師の娘の一人旅」、2022.3  
朝日カルチャーセンター、2020.11～

(2) 学会

国内、日本比較文学会、理事、2018.6～2020.6

国内、日本英文学会関東支部、理事、2019.4～

国内、日本比較文学会東京支部、幹事、2019.6～

(3) 行政

法務省、考査委員、2018.10～2021.10

(4) 学外組織

日本学術振興会学術システム研究センター専門研究員、2017.4～2021.3